

コンフリクトの人文学 第2号 目次

特集1—移行期社会におけるオルタナティブ・ジャスティス

- 序言 栗本英世
- 解題:移行期社会におけるオルタナティブ・ジャスティス
——真実委員会と修復的司法 石田慎一郎・河村有教
- 研究ノート:
映画“Long Night’s Journey into Day”を解説する
——アパルトヘイト後の南アフリカを生き抜く人々の真実と和解 海野るみ
- 論文:政治犯罪に修復的司法は可能か
——南アフリカの教訓 ステファン・パーメンティア
- 論文:集団暴力後のグローバル・ジャスティス
——政治犯罪における国際刑事裁判所の役割 ステファン・パーメンティア
- 資料と通信:
政治犯罪・集団暴力に対する修復的アプローチをめぐる総合的検討
——ワークショップにおけるコメント及び質疑応答
石田慎一郎、河村有教、加藤敦典、久保秀雄、高野さやか
馬場淳、クラウディア・イトゥアルテ=リマ

特集2—Rethinking “the Visual”——人文学にとっての映像とは

- 序 田沼幸子
- 研究ノート:
「撮る」と「撮られる」——眼の座標をめぐって:
ドキュメンタリー映画の歴史から 岡田秀則
- エッセイ:
映像表現と治癒——映像作家としてのライフヒストリーから 根来 祐
- 研究ノート:
(あいだ)の言葉を聞く——人類学者と映像の可能性 田沼幸子
- 論文:遊びとしての現実——
「フィクションとしてのドキュメンタリー」から人間の科学が学ぶこと 内海博文

ワークショップの記録

- 映像による異文化表象の諸問題——人類学者デイビッド・タートン教授を囲んで
解説 栗本英世
映像による異文化表象の諸問題 デイヴィッド・タートン

セミナー論文

- 遅すぎたパレスチナ二国家解決案——未来への提言 ハイム・ブレスリース
- 解題 赤尾光春

研究ノート

- 排除と包摂の生政治学——剥き出しの生の位相とその境界的潜在性 前田雅司
- 現代韓国における迷信打破運動——
一部のプロテスタントと非キリスト教徒間の摩擦 松崎遼子

資料と通信

国際セミナー「移動とアイデンティティ——コンフリクトと新たな地平」

奥田若菜

書評

阿部利洋『紛争後社会と向き合う——南アフリカ真実和解委員会』
京都大学学術出版会、2007年

石田慎一郎

幡谷則子・下川雅嗣共編『貧困・開発・紛争——グローバル／
ローカルの相互作用』上智大学出版、2008年

加藤敦典

吉國恒雄著『燃えるジンバブウェ——南部アフリカにおける
「コロニアル」・「ポストコロニアル」経験』晃洋書房、2008年

早川真悠

ダニエル・ボヤーリン／ジョナサン・ボヤーリン
『ディアスポラのカ——ユダヤ文化の今日性をめぐる試論』
赤尾光春・早尾貴紀訳、平凡社、2008年

鶴見太郎

Nneoma V. Nwogu, *Shaping Truth, Reshaping Justice:
Sectarian Politics and the Nigerian Truth Commission.*
Lanham: Lexington Books, 2007

石田慎一郎

英文要旨

大阪大学グローバルCOE
コンフリクトの人文国際研究教育拠点事業記録
H21. 9—H21. 7

1. 「コンフリクトの人文」セミナーの開催記録
2. ワークショップ、研究会等の開催記録
3. 国際会議の開催記録
4. 大学院生調査研究助成
5. 大学院生国際研究集会参加支援プログラム

執筆者紹介
寄稿規定
編集後記